

愛媛大学 仲道雅輝

新型コロナウイルス感染症の拡大に関連した今年2月末の休校要請以降、全国の大学でオンライン授業への移行等の対応がとられた。在学生の学びを止めないため、そして新入学生の円滑な受け入れのための教職員の奮闘は数か月に渡った。今後、第2波、第3波への懸念、他の新興感染症の脅威が続くと予想され、オンライン授業がまた、オンライン授業の心構え

このたびは、オンライン授業を緊急時の代替手段から、大学教育の質を高める効果的な授業方法へと継続・発展させるための授業設計上の留意点、および、今後の課題等について述べる。

達成指標	主なID技法
継続的学習意欲を醸成し、自己選択・自己管理の学習環境を構築する。	動機づけ設計法(ARCSモデル) 成人学習原則
学習課題の特性に応じた学習環境を構築し、学習者の共同体的な学びを促進する。	学習支援設計法(9要素) 教授系系列化技法
操作性・ユーザビリティ・ナビゲーション・インタラクティブ性を高める。	プロトタイプ形成的評価技法
内容の正確さ、取り扱える範囲の広さ、正確な根拠、適切な権限を確保する。	二重分析技法(職務分析・内容分析)
アクセス環境のレベルに合わせた代替利用方法、サービスの安定性、安心感	学習環境分析技法(メディア選択)

図1: eラーニングの質保証レイヤーモデル(鈴木克明: IDの視点で大学教育をデザインする鳥瞰図-eラーニングの質保証レイヤーモデルの提案-, 2006)

動・継続するにあたり、保持すべき心構えとして「はじめから完璧を目指さず、できることからテップアップする気持ちで取り組む」ことが挙げられる。なぜなら、ほとんどの大学では、学生・教員ともにオンライン授業にも慣れており、一気

に高い(対面授業並み)の授業設計上の留意点、および、今後の課題等について述べる。

さらに、今回のような緊急事態では、従来の対面授業を前提として創り上げられたルールの変更や、大学側の抜本的な発想転換が必要であることを受け入れ、まずは学習の「継続」を目標として目の前の課題をクリアしていくことが現実的である。そして、試行錯誤しながら、学生と教員がICTスキルにある程度の自信をつけ、お互いが了らぬ学習を進められるように、授業を再構成していく必要がある。



大学教育の更なる活性化を目指して オンライン授業設計の要点と今後の課題

さらに、今回のような緊急事態では、従来の対面授業を前提として創り上げられたルールの変更や、大学側の抜本的な発想転換が必要であることを受け入れ、まずは学習の「継続」を目標として目の前の課題をクリアしていくことが現実的である。そして、試行錯誤しながら、学生と教員がICTスキルにある程度の自信をつけ、お互いが了らぬ学習を進められるように、授業を再構成していく必要がある。

現在、オンライン授業が拡大するにつれて、授業に出席しない学生や課題を提出できない学生が一定数存在することや、想定される授業の質保証が問題となっている。今

効果的である。また、「同期」と「非同期」の特徴を理解し、リットを最大にできるような組み合わせたり、学習目標によって使い分けたりと工夫することで、対面授業と同等、もしくはそれ以上の効果を得ることが可能である。簡単に解説すると、同期型と課題設定のコツ

同期型と課題設定のコツ 同期型と課題設定のコツ 同期型と課題設定のコツ 同期型と課題設定のコツ

「実験を行うことができ」としていたものを「実験方法について説明することができる」とする。同期型のオンライン授業においては、LMSや掲示板会議システムを用いた小グループでのディスカッションをさせた場合、対面授業のときのようになり、教員が、クラス全体の進行やグループ内での発言状況を把握することが難しい。また、学生が対面授業でわからないことがあればすぐに隣の席の友人に尋ねるなど、リアルタイムでの教えあいや学びあいで補えることが多い。しかし、オンライン授業ではタイムリーに聞けず、そのままたいていけなくなるケースがある。そのような学生を減らすためには、オンライン授業後のレポートや出席カードに、学んだことだけでなく、わからないことを表現してもらおうことが効果的である。これにより学生が理解しにくかったところやフォローアップが必要な学生を抽出することができ、また、このように反応を手掛かりにして個別フォローアップを行うことで、ドロップアウトを防ぐ効果もあると思われる。さらに、オンラインならではの効果を感じつつ、適切に設計されたオンライン授業が、学生の思考を活性化させたり、より深く考えさせたりすることに繋がっている。この示唆ではないだろうか。 オンライン授業は、対面授業でしてきたことをすべてオンラインで同じようにやることを目指すのではない。対面授業での学習をオンライン授業に適したかたちに変換することで学習機会を確保したり、ICTツールを有効に活用することにより、効果的な学習を支援すべきである。